

2026. 6 vol. 126

改訂版 vol. 56

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



◆退任のあいさつ

前女性委員長 岡田 利里

このたび、二年間の任期を終え、女性委員長を退任することになりました岡田です。在任期間中は、諸先輩方をはじめとする女性委員の皆様から温かいご指導とご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

振り返りますと、「ブロック美濃・関大会」を青年委員会と共同で開催したことが最初に思い出されます。何度も実行委員会のWEB会議を行い、青年委員会と女性委員会の仕組みの違いに戸惑うこともありましたが、無事に2日間の日程を終えた際の達成感、そして実行委員長をはじめとする皆様の団結力を感じたことは、何物にも代えがたい経験となりました。

また、「全国女性建築士連絡協議会」では、東京と山形の大会に参加させていただきました。基調講演や被災地報告からの学びはもとより、発表者側として分科会に参加させていただいたことや、他県の女性建築士の方々との交流は、私にとって大きな財産となりました。さらに、「気楽にらくだ会」での交流も深く心に残っております。女性委員の皆様が、建築だけでなく、多様な社会活動にも邁進されていることや、プライベートなお話も伺うことができ、親近感や尊敬の念を感じたことも思い出に残っております。

こうした活動を振り返る中で、「たくみ女子会」や「建築関連企業等と学生の交流サロン」での女子学生との交流、新委員長のもと今年度始動した親子向けの体験企画「くむんだー」などの、次世代の建築業界を担う若者に向けた活動は、改めて女性委員会の意義として感じています。

建築を取り巻く環境や社会のニーズが急速に変化する現代において、私たち女性建築士の持つ生活者としての感性や視点は、今後ますます重要な役割を担っていくのではないのでしょうか。

私の任期はここで一区切りとなりますが、次期委員長を中心とした新体制のもと、女性委員会がさらに活気あふれる会として発展していくことを、心より応援しております。私も今後は一委員として、微力ながら会の活動を支えていく所存です。二年間、本当にありがとうございました。

◆新任のあいさつ

新女性委員長 桂川 麻里

今年度から2年間女性委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

建築士会に入会する前から諸先輩方にセミナーや見学会やなどに誘っていただき、2013(平成25)年から女性委員会の一員として13年間、建築の事だけでなく、人付き合いなども勉強させていただきました。軽いフットワークが必要な現在の仕事ができるのも、全国大会や東海北陸ブロック会と一緒に連れて行ってくれた諸先輩方のおかげだと思っています。

諸先輩方のようにスムーズな運営は出来ませんが、人口減少に伴って建築士会も会員減少に苦しみ中、仕事に直結するようなセミナーや何度でも足を運びたいような見学会をみんなで考えて、楽しい会にするという思いで頑張ります。

また、女性委員会が発足して、2028(令和10)年で40周年となります。30周年の時から女性委員会のメンバーも減少しています。主に活動しているメンバーの中で13年間一番年下のままで委員長となったことに危機感を抱いております。

どのようにしたら存続できるのか、みんなで話し合いながら、次の50周年まで繋げていけたらと思います。皆さまどうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



今回の記事

- ◇ はじめに
新旧女性委員長挨拶
- ◇ 今回の記事
- ◇ 今後の予定・お知らせ
- ◇ 見学会「願興寺本堂」
日時:令和7年9月2日(火)
10:00~12:00
会場:願興寺
住所:岐阜県可児郡御嵩町御嵩 1377-1
参加者:8名
- ◇ 第67回建築士会全国大会「おおさか大会」
日時:令和7年9月19日(金)
会場:グランキューブ大阪
(住所:大阪市北区中之島5丁目 3-51)
テーマ:建築からソーシャルデザインへ
参加者:5名
- ◇ 建築士会 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和7年度 臨時 WEB 会議
日時:令和7年10月17日(金)
場所:WEB会議(ZOOM使用)
参加者:19名(岐阜県3名)
(記事としての報告はありません)
- ◇ 建築士会 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和7年度 ブロックいが大会

女性建築士協議会単独開催

参加者:女性委員会 43名(内岐阜県女性委員会7名)
近畿ブロックより参加 大阪府5名 和歌山県1名
静岡県より参加 1名

[対面参加合計 50名 WEB参加 2名](#)

来賓者等 3名

日時:令和8年2月21日(土)~22日(日)

テーマ:

「城下町のこれから~賑わいの拠点を目指して~」

宿泊ホテル:ルートイングランデ

和倉の宿 伊賀上野城前

(住所:伊賀市上野丸之内 1-131)

- ◇ 今第24回 気楽にらくだ会「座談会」

日時:令和8年3月7日(土)

13:30~15:50

場所:OKB ふれあい会館 小会議室405

参加者:11名

- ◇ 編集後記



今後の予定・お知らせ

- ◆ 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会

令和8年度 前期定例 岐阜会議

日時:令和8年6月20日(土)

- ◆ 令和8年度 全国女性建築士連絡協議会東京大会

日時:令和8年7月19日(日)~20日(祝月)



見学会「願興寺本堂」

日時:令和7年9月2日(火)

10:00~12:00

会場:願興寺

住所:岐阜県可児郡御嵩町御嵩 1377-1

参加者:8名

【プログラム】

9:45 集合⇒移動

10:00~11:00 願興寺 見学会

11:00~11:30 霊宝殿拝観

11:30~12:00 名鉄 御嵩駅 見学

12:00~12:30 御嵩を散策

12:30~13:30 ランチ ※古民家かしわ屋

13:30~15:00 第3回例会



(↑ 願興寺 靈宝殿前にて集合写真)

見て当時の人々の暮らしや思いに想像をめぐらしました。
構造的な安全性を高めるため鉄骨による補強も同時に行われており、伝統と現代技術による保存修理が進められていることも印象的でした。



(↑ ヘルメットを被り、見学現場に向かう)

見学会 ～文化財の魅力を感じよう～

報告者: 松村久美子

1. 願興寺本堂 保存修理現場

旧中山道御嵩宿にある願興寺は「蟹薬師(かにやくし)」の名で親しまれ、広く民衆の崇敬を集めてきた国指定重要文化財です。

本堂は 998 年に創建され、これまでに 2 度焼失。現在の建物は 1581 年に再建されたもので過去に 10 回ほどの修理が行われてきましたが今回のように全てを解体して行う保存修理は初めてのことです。

修理工事は 2026 年 12 月の完了を目指し約 10 年の長期計画で進行中です。見学では屋根の野地板の取り付けが完了した段階の様子を足場の上から間近に見ることができました。修理工事では可能な限り既存の部材を再利用する方針がとられており、野地板も表面と裏面を部位に応じて使い分けるなど、丁寧な工夫がされていました。

ご案内いただいたのは設計監理事務所(公益財団法人文化財建造物保存技術協会)の内山所長です。文化財建造物の保存に携わる専門家から、直接解説を伺える貴重な機会となりました。本堂の柱には他に例がない、檜、棕、杉、松、樅、榎、楓、桂、桧と 9 種類もの木材が使われており、これは当時の財政的事情から地域の人々がそれぞれ木材を持ち寄ったのではないかと考えられているそうです。年月を経て見た目では同じように見えるものの見学者にわかりやすいよう柱に樹種名が表示されていました。また、解体作業中に墨で書かれた落書きや羽子板といった遺物が発見された写真展示を



(↑ 大まかな説明を受ける)



(↑ 屋根についての説明を受ける)



(↑ 柱材の材種説明)

2. 霊宝殿

本尊の薬師如来坐像をはじめとする24躰の国指定重要文化財が収蔵されています。見学はご住職の般若心経の読経からはじまり、寺院の由来や仏像について丁寧なご説明をいただきました。ご開帳の際にはぜひ訪れてみたいと思いました。

3. 旧旅籠柏屋主屋(古民家カフェかしわ屋)

旧中山道沿いに位置する「旧旅籠柏屋」の主屋は令和7年7月に登録有形文化財として答申されました。現在「古民家カフェかしわ屋」として活用されています。内部は中土間を活かし開放的な造りとなっています。美味しいランチをいただきながら歴史ある空間を堪能しました。

今回の見学を通じて、文化財建造物が持つ歴史的・技術的・文化的価値を体感することができました。貴重な建造物を受け継いでいくことの大切さを実感しました。



(↑ かしわ屋にてランチの様子)



令和7年7月18日に登録有形文化財に答申された「古民家カフェかしわ屋」



第67回 建築士会全国大会 「おおさか大会」

日時: 令和7年9月19日(金)

会場: グランキューブ大阪

(住所: 大阪市北区中之島5丁目3-51)

テーマ: 建築からソーシャルデザインへ

参加者: 5名

スケジュール

| 9月18日(木) 大会前日 | プログラム | 時間 | 場所 |
|----------------------------|-------------|-----|--------------|
| ① 記者会見 | 13:30~14:30 | 12階 | 会議室1201 |
| ② 連合会理事・士会長合同会議 | 15:00~17:00 | | 特別会議場 |
| ③ まちづくり賞発表＆選考会 | 13:00~17:00 | 10階 | 会議室1009 |
| ④ 全国建築士フォーラム | 14:00~17:00 | | 会議室1003 |
| ⑤ 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会 | 13:30~18:00 | | 別会場・大阪市中央公会堂 |

| 9月19日(金) 大会当日 | プログラム | 時間 | 場所 |
|---------------------|-------------|-----|-----------------|
| ⑥ 総合受付 | 9:00~16:00 | | |
| ⑦ 企業出発 | 9:00~17:00 | 3階 | イベントホール |
| ⑧ 休憩・食事エリア | 9:00~17:00 | | |
| ⑨ 弁当配布 | 11:00~13:30 | | |
| ⑩ 木の建築賞セッション | 9:30~11:30 | 11階 | 会議室1101、1102 |
| ⑪ 青年委員会セッション | 9:00~11:30 | | 会議室1003 |
| ⑫ 女性委員会セッション | 10:00~11:50 | | 会議室1004 |
| ⑬ 福祉まちづくりセッション | 9:30~11:30 | | 会議室1005 |
| ⑭ 環境部会セッション | 9:30~11:30 | 10階 | 会議室1006 |
| ⑮ 木のまちづくりセッション | 9:30~11:30 | | 会議室1007 |
| ⑯ 景観まちづくりセッション | 9:30~11:30 | | 会議室1008 |
| ⑰ 歴史まちづくりセッション | 9:30~11:30 | | 会議室1009 |
| ⑱ 街中(空さ街)まちづくりセッション | 9:30~11:30 | 8階 | 会議室801、802 |
| ⑲ 防災まちづくりセッション | 9:30~11:30 | 7階 | 会議室701、702 |
| ⑳ 国際シンポジウム | 9:30~11:30 | 10階 | 会議室1002 |
| ㉑ 大阪講演-1 | 10:00~11:30 | 12階 | 特別会議場 |
| ㉒ 大阪講演-2 | 10:00~11:30 | 10階 | 会議室1001 |
| ㉓ 記念講演会 | 13:00~14:30 | | |
| ㉔ 大会式典 | 15:00~17:00 | 5階 | メインホール |
| ㉕ 大交流会 | 17:30~19:00 | | 別会場・リー・ガロイホテル大阪 |



(↑ 石黒会長と一緒にの集合写真)

■全体報告

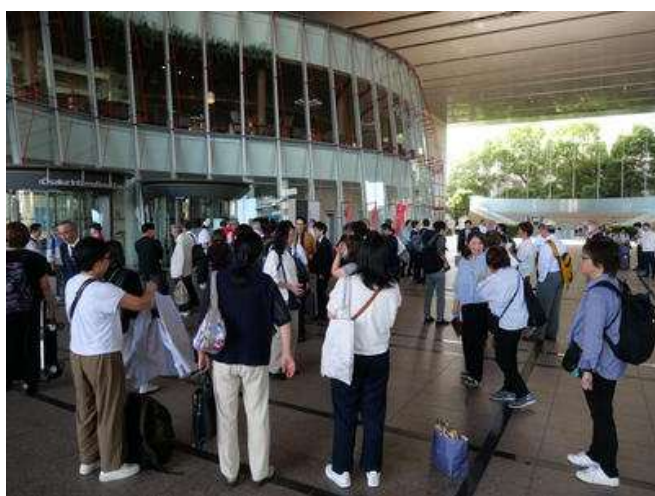
報告者:長瀬 八州余

2025年9月19日に第67回建築士会全国大会 おおさか大会が大阪市北区中之島のグランキューブにて開催されました。

3,163名の申し込みがあったとの説明でした。

連合会への出向者の長瀬は、女性セッションの準備の為前泊となりました。

当日は会場開館が朝8時なので、それに間に合うようにホテルを出ます。グランキューブ玄関前には多くの方が待っていました。



(↑ 開館前の玄関前の様子)

開場後、直ぐに10階へ向かい女性セッション会場の準備を始めました。

今回開催されるセッションは10会場あり、開始時間がバラバラです。

女性セッション開始までの間に受付へ行って、大会冊子等を受け取りました。

いつもだと資料が入っている袋は、観光協会からの袋が多いと思いますが、今回は「クマリフト」の布の袋でした。

セッション資料はホームページより自分で事前に用意するとか、名札も今回はありません。



(↑ クマリフトの布の鞆に大会冊子、大阪天満宮のお守り、干しうどんが入っていました。)

セッションが終了して、3階のイベントホールへ行ってお弁当を受け取り、昼食です。



(↑ 弁当受け渡しと食事エリアには、企業ブースが壁の周りに設置されていました。)



(↑ 六彩弁当となにわ彩り弁当です)



(↑ 次回開催県の群馬県もブースを設けてPRしていました。)



(↑ 今回大阪のテーマカラーは赤で、はっぴの他にもう一種類上着がありました。)

静岡県が女性委員会の設立に向けて動いているということで、東海北陸ブロック会での意見交換をしたいということで、昼食を食べながら、ブロックからは、筒井さん、水木さん、有村さん、桂川さん、高野さん、長瀬が参加して、静岡県の女性4名と意見交換をおこないました。今年度の三重県でおこなわれる後期いが大会にオブザーバーで静岡県が参加する予定となりました。



(↑ 静岡県との意見交換の様子)

5階のメインホールで記念講演会、大会式典がおこなわれました。

5階のメインホール入り口では96インチモニターが2台設置されて、一台には、伝統的技能者の紹介、もう一台には、7月に行われた、「令和7年度第34回全国女性建築士連絡協議会(山形)大会」の報告がされていました。今まではパネルでの全建女報告でしたが今回はデジタルサイネージでの案内になっています。



(↑ 女性委員会活動報告のデジタルサイネージの様子。立ち止まって見てくださる人もいました。)

17:30からはグランキューブ隣にある、リーガロイヤルホテルにて大交流会です。

大交流会へは、大会受付の時にもらった、紙製のストラップを腕につけて入ります。

今年の夏は本当に暑く、準備の大阪府建築士会の方々は大変だったと思います。楽しい時間をありがとうございました。

■ 記念講演会

テーマ「循環経済と未来建築」

講師：クリスチャン・サンダー・チャージツヒ氏

報告者：高野 栄子

今年の記念講演はドイツ人の建築課クリスチャン・サンダー氏でした。クリスチャン氏はドイツ人で大阪関西万博のドイツ館とクエート館のデザインを担当されました。

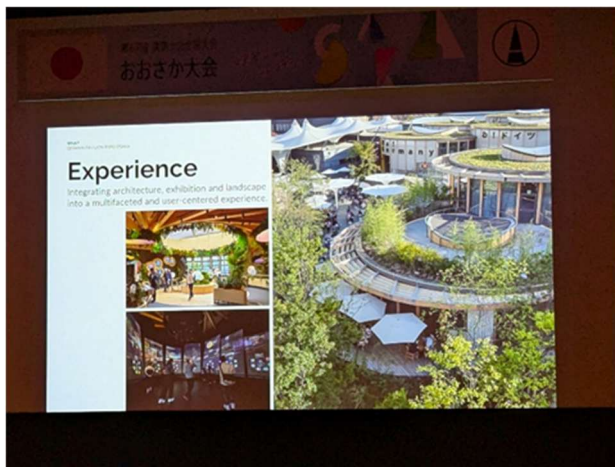
クリスチャン氏の建築に対するポリシーについてお話し頂き、各パビリオンのデザインについて説明頂きました。

ドイツ館の「わ」について循環の「環」と調和の「和」をもとに表現しているそうです。循環について再利用可能な材料と低炭素な資材を使って作ったそうです。

またクエート館のランドスケープには地元の造園家の協力のもと、植栽はすべてレンタルで会期が終了後リサイクルされるようです。

講演は同時通訳で行われ、説明の写真や図形は英語表記で行われました。通訳の方も1級建築士で英語が堪能な方でしたが、やはり講演者の方のお話の意味を全て理解することは難しかったです。またパワーポイントの映像も、私は万博に行っていてドイツ館やクエート館をちらっと見学していてイメージが出来ましたが、英語で何が書いてあるかわからない上にCGなどもイメージ出来なくて難解でした。グローバルな時代で万博期間中という時期でしたのでこのような講演会も有りなのかと思います。外国人の方の講演を聴く機会は今後もなかなかないとも思います。

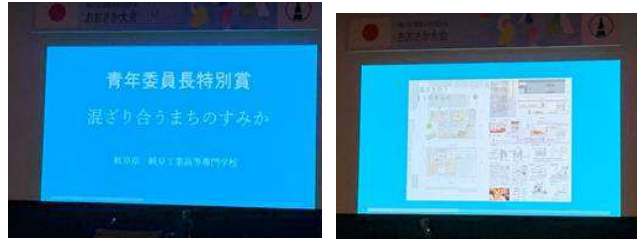
とても良い経験をさせて頂きました。



■大会式典報告

報告者: 小林 教子

9月19日午後3時からの開催に先駆けて、第15回高校生の建築甲子園入賞者が舞台スライドで映され、青年委員長賞を受賞した岐阜工業高等専門学校「混ざり合うまちのすみか」も紹介されました。



(↑ 岐阜工業高等専門学校の資料スライド)

オープニングは“だんじりのおはやし”で始まり、開会宣言、主催者挨拶と、プログラムに従って進められました。全国参加申し込みは3,163名とのこと。今年の物故者312名の追悼後、連合会長のあいさつに続き来賓のあいさつがされました。

来賓はほとんどが祝辞代読でしたが、大阪府知事はビデオレターにより舞台モニターでしたが、ご自身の言葉でされ、代読に比べ温かみや気持ちがじかに伝わる気がしました。今後はこの形式が増えるかもしれません。



(↑ 長柄祭囃子保存会による、オープニングセレモニーの様子)



(↑ 古谷会長の挨拶の様子)

■大交流会の報告

報告者: 桂川 麻里

場所 : リーガルロイヤルホテル大阪 イーストウィング
3階 光琳の間

出席者: 岐阜県から3名 総数: 1,000 名以上



(↑ 吉村府知事のビデオレターでの挨拶の様子)

その後、来賓紹介、祝電披露き、大韓建築士協会会長の
の連合会名誉顧問任命式、表彰式と続きました。

大会アピールは大阪建築士会会長と連合会副会長石
黒氏2人で行われ、大会旗が次期開催地群馬県建築士
会に引き継がれました。

次回は2026年10月16日(金)高崎芸術劇場とGメッ
セ群馬で、「絹の国 建築つむぎ 未来へはばたけ」の
テーマで開催されます。



(↑ 会場の光琳の間)



(↑ 大会アピールの様子)



(↑ 建設当時からのシャンデリア)



(↑ 次回開催県の群馬県 125 名によるアピールの様子)

大交流会の会場は大会式典等のグランキューブ大阪の
お隣にあるリーガルロイヤルホテル大阪でありました。
吉田五十八が設計し「新大阪ホテル」として 1965 年に
建てられたものです。

この日も暑い日でしたので、皆さんのどが渴いていたの
か、開始前からビールの封が切られていました。

最初に巫女さんの舞が奉納され、大交流会が始まりま
した。



(↑ 雅楽による巫女さんの舞)

料理はビュッフェ形式で真ん中にあるもの以外に切りたてのローストビーフやラーメンは左右にあり皆さん並んで大盛況でした。



(↑ ローストビーフも担々麺も最後までありました。)

飲み物もビール以外は左右に取りに行く形式で、ウイスキーやワインなどたくさんありました。途中、毎年企業出展でしか頂けないクマリフトさんのトートバックが今年受付で資料のカバンとして提供して頂いたということで、クマリフトさんのご紹介の時間もありました。いつもはセッションの準備や片付けで企業出展を回ることが出来ないの、全員が頂けるのはとても嬉しかったです。



(↑ クマリフト関係者の挨拶の様子)

最初のうちは東北北陸ブロックの席の周りにいましたが、全国大会の時にしかお会いできない方を探して会場を歩き回りました。

参加者の人数が多くて端から端までたどり着くのに一苦労しましたが、色々な方と情報交換が出来て、とても有意義な時間を過ごしました。



(↑ テーブルはブロック別になっていました。東北北陸ブロックのテーブルの様子)

来年の全国大会開催地の群馬の方達によるぐんま大会の紹介もありました。私の宿泊のホテルで20時までフリードリンクがあり、そこで群馬の富岡支部の方達がこの紹介コーナーの苦勞をちょうど話されていました。お声を掛けさせて頂いたら快く仲間に入れてもらえ、来年の全国大会も楽しみになりました。



(↑ 大交流会の様子)



(司会は、落語家の桂吉坊さんでした。)

■セッション報告

日時: 令和7年9月19日(金)

会場: グランキューブ大阪

(住所: 大阪市北区中之島5丁目 3-51)

テーマ: 建築からソーシャルデザインへ

参加者: 5名

- ⑩ 木の建築賞セッション
- ⑪ 青年委員会セッション
- ⑫ 女性委員会セッション
- ⑬ 福祉まちづくりセッション
- ⑭ 環境部会セッション
- ⑮ 木のまちづくりセッション
- ⑯ 景観まちづくりセッション
- ⑰ 歴史まちづくりセッション
- ⑱ 街中(空き家)まちづくりセッション
- ⑲ 防災まちづくりセッション

女性セッションに参加して

報告者: 長瀬 八州余

おおさか大会での女性セッションのテーマは「思いっきりバージョンUP! Part3～誰もが参加したい未来の「魅力ある建築士会」とは～」ということで、前々回の静岡大会 Part1、前回の鹿児島大会 Part2と続き、今回の大阪大会は Part3で、参加者でのディスカッション形式でおこなわれました。

参加者は、57名+WEB1名 合計58名(女性54名+男性3名+WEB1名)

視点① ジェンダー(Gender)(社会的性別)について

視点② 学生について

視点③ シニア世代(55歳以上)について

視点④ 働き盛り世代の建築士について(35歳～55歳について)

視点⑤ 若い世代について(20歳～35歳)

視点⑥ 情報発信について(イベント等の集客)

視点⑦ 建築士の認知度向上について

7つの視点にフォーカスして、各グループで意見交換です。各グループのファシリテーターは連合会へ出向している各ブロックの委員です。

【プログラム】

10:00 開会挨拶(全建女報告・セッション趣旨説明)

10:05 グループワークの進め方説明(5分)

10:10 グループワーク(65分)・自己紹介(10分)
・シンキングタイム(10分)

・グループ内意見発表(30分)

・グループ内まとめ(15分)

11:15 全体発表(30分) 3分×7グループ

11:45 閉会挨拶

11:50 閉会

1枚の付箋に一つの意見を書いて、一人何枚でもOKです。

短い時間内での意見交換となりましたが、各グループしっかりと意見交換ができたようです。

大交流会で、同じグループに参加された方が、「セッションは楽しかったですね」と話しかけてくださいました。

詳しい各グループの報告は後日、連合会女性委員会のHPに掲載予定です。

以下は各グループでの発表の様子です

①ジェンダーについて



②学生について



⑤若い世代について



③シニア世代について



⑥情報発信について



④働き盛り世代の建築士について



⑦建築士の認知向上について



福祉まちづくりセッションに参加して

報告者: 下川 滝美

テーマ: ユニバーサルなまちづくりを目指して
～大阪・関西万博におけるユニバーサルデザインの
計画と見直し～

今回のセッションに参加するにあたりどのようにすると一番楽に行けるのか、障害者に対するどのようなサービスがあるのかを確かめるために前日に万博に行くことを計画しました。チケットをとるにあたり万博までの移動をどのようにするかから始めました。コロナ禍より前は大阪へはバリアフリー展で毎年行っており電車での移動が大変なことを知っていたために今回はシャトルバスを利用しました。

新幹線で新大阪まで行きシャトルバスで西ゲートまで、入り口は優先入場で待ち時間なしで入れました。帰りもホテルを大会会場横のホテルを早くに予約していたのでシャトルバスでとても便利に行けました。福まちセッションは万博のUDについての発表でしたが私の場合は内部障害なのでとにかく疲労を避けての万博までの移動を検討しての参加でした。車いすも検討しましたが混雑などから利用をしませんでした。

万博内は平日としては最高人数だった日に当たりとても混んでいました。

大屋根リングを一周することとトイレと休憩所の見学が目的だったのでゆっくりとみておくことができましたが普段あまり動いていないので後から筋肉痛が大変でした。

セッションは、8月23日に有志で行かれた万博会場の視察会の報告を桂川さんがされ、その後大阪府建築士会の山本さんから大阪・関西万博におけるユニバーサルデザインの計画と見直し～障がい当事者が望んだことと実際～を報告されました。

事前に TOTO のトイレや休憩所のセミナーを受けていたこと、万博に行った人からの報告などを聞いていたこと、前日に実際に現地に行ったことから、お二人の報告がとても分かりやすく当事者が参画したことで改善されたことや改善まで至っていないことの報告も納得しながら聞くことができました。

次に大阪府都市整備部の担当者からの報告では宿泊施設等のバリアフリー改修等助成制度や大阪府福祉のまちづくり条例など先進的な取り組みをされていることが報告されました。

そのあとは徳島県など他県の活動報告を聞いてあっという間の充実した2時間でした。万博の滞在時間は4時間ほどでしたが充実した2日間でした。

【下記はやさしい言葉でわかりやすい案内板の写真3枚です。】





(↑ 報告②大阪・関西万博におけるユニバーサルデザインの計画と見直し～障がい当事者が望んだことと実際～ 大阪府建築士会の山本さん)



(↑ 会場の様子 川口部会長挨拶)



(↑ 報告①大阪・関西万博会場視察(8/23)報告 岐阜県建築士会の桂川さん)

木のまちづくりセッション報告

報告者: 小林 教子

テーマ『次世代の木の建築を支えるための 人・木・森』サブテーマ「木の建築を作り続けるために今始めなければならないこと」として近畿地区でのそれぞれの視点での活動報告がされた。詳細はセッションの資料をダウンロード願いたい。

さまざまな問題点が紹介され、例えば、一般ユーザーが県散材を確認する場所がなく、山と木の関係を知る方法がないため、森に対する意識をどう高めるべきか。見識の高いユーザーは存在するが、電話1本で木材が届くため、日本においてインドネシアなどのように、搾取するのみで利益が出なければ植林されないような状況が起こりかねない。現状として皆伐後の植林は40%で、山の再生林ができていない危機感があり、持続可能な森林が少なく、伐採できない箇所は税金を投入して保っている状況である。森林を育てる費用も材の値に入れるべきという意見も出た。

供給者・作り手・建築士・ユーザーが存在する中、建築士の役割としてユーザーに説明し、地域材の使用の推進を進める。NPOでの木材コーディネーター養成の紹介もあり、地域での中小企業が連携し木材流通が成り立つため、地域の生産体制が成り立たなくなることへの

危機感も話題となった。

森や木の実際を知ってもらい、2世代かけないと木が育たない、現在の収益だけでは再生林できないなど、山について知る方法をどうするかが最後まで問題となった。

セッションを機会に各登壇者が考えたことを以下に記しておきます。

「日本において近くの木で近くの大工さんが建築を造ることは特別な事ではない。その価値観が暮らしや風景をつくってきました。もし今うまくいっていないとしたら、設計者はそれを思い出して現し伝えていかなければならない。」

「拡大する木材利用のニーズに応えるためには、各林産地から生産される木の特性十分に把握し、各地の原木生産や、製造体制の強みを活かした広域的な、木材供給のネットワークが必要だ。」

「他の建材にはマネのできない再生産可能資源としての木材の特性を、木のまちづくりの理由にするならば、今のところ十分に確保されていない。森の再生林費用は、まちづくりプロジェクトが担わなければならないのではないか？」



(↑ 会場の様子)

歴史まちづくりセッション

第12回全国ヘリテージマネージャー大会

テーマ 歴史のなかの多様な特徴的地域づくり
～大阪「摂津国、河内国、和泉国に由来する」とりくみ

報告者: 高野 栄子

歴史まちづくりセッションでは、地元大阪の3つの地区の特徴有るまちづくりについて発表がありました。

「大大阪、船場のまちと建築」と題して国登録有形文化財の所有者の青山様が発表されました。18日にヘリテージマネージャー協議会の総会で船場のまちあるきをしました。そこで青山様所有の青山ビルも見学しました。船場という町の成り立ちや特徴について、特に歴史的建造物の保存活用についての話はとても興味が沸きました。船場地区には船場倶楽部という船場で活動するさまざまな団体が会するプラットフォームがあって一般社団法人としてまちづくりをおこなっているようです。やはり地元の建物所有者の熱意が重要なんだと感じました。

次に河内長野市の観心寺の学芸員で立命館大学の講師でもある尾谷様から歴史的建造物の屋根葺材についてのお話でした。河内長野市内の指定文化財や登録文化財の植物性の屋根葺材を確保する必要があり、「ふるさと文化財の森」を設定して資材の採取を行っているようです。茅や檜皮などを確保し、文化財保護の地産地消を実証しているとのことでした。とても興味深いお話でした。

最後に大阪府の文化財保護課の萩原さんから和泉国の歴史的景観についてお話がありました。和泉国には国宝に指定されている社寺建築が多く残っているとのこと。堺市は「環濠都市」を形成し「堺市歴史的歴史的風致維持向上計画」を策定しています。「鉄砲鍛冶屋敷」やその他重要文化財、登録文化財を維持・活用して見えます。また泉佐野市の「日根荘大木の農村景観」は大阪府内で唯一の「重要文化的景観」です。景観計画を策定し、その景観が日本遺産に認定され

その保護やその景観を周遊など活用事業に取り組んで

見えます。

皆さんの発表のあと会場からの質疑にお答え頂き、コーディネーターの塩見さんも加わり意見交換が行われました。皆さんとても熱心にいろいろな活動に取り組みされていて勉強になりました。



■エクスカーション報告

| 10月26日(土) 地域交流見学会(エクスカーション) | |
|------------------------------------|-----------------------|
| プログラム(15コース) | 時間 |
| Aコース さつまの小京都「知覧」と蒸溜所めぐり | 8:15~17:00 |
| Bコース 「霧島」黒酢の蒸溜と桜島絶景めぐり | 8:15~17:30 |
| Cコース 「指宿」砂むし温泉と薩摩伝承館めぐり | 8:00~17:00 |
| Dコース 「もえる桜島」ぐるーり1周、新たな発見!めぐり | 8:00~17:20 |
| Eコース 武家屋敷の街「出水」建築物と町並みめぐり | 8:00~17:30 |
| Fコース 日本遺産まち歩きと維新の足跡めぐり | 8:25~17:15 |
| Gコース 種子島宇宙センターと古民家めぐり | 7:00~18:45 |
| Hコース 桜島から大隅半島縦断 温故知新の旅(1泊2日) | 8:00~翌14:30 |
| Iコース パワースポットをめぐり霧島温泉で癒やされる旅(1泊2日) | 8:20~翌14:30 |
| Jコース 世界自然遺産「屋久島」を堪能する旅(1泊2日) | 7:15~翌16:10 |
| Kコース 「奄美大島」伝統・文化・世界自然遺産をめぐる旅(1泊2日) | 8:00~翌9:30 |
| Lコース 鯨の旨味と世界にひとつオリジナル焼酎づくりコース | 8:15~17:00 |
| Mコース 「飯島」大自然のアートと絶景コース | 7:10~18:50 |
| Nコース 東シナ海乗り鉄ぐるめコース | 8:30~14:15 |
| Oコース 大正〜令和 かごしまの「顔」今昔まち歩きコース | 8:20~11:30 9:00~11:30 |

エクスカーション G コースに 参加して

報告者:長瀬 八州余

Gコース

大大阪時代の中の島と船場の近代建築めぐり

今回岐阜県建築士会女性委員会からエクスカーションに参加したのは1名でした。

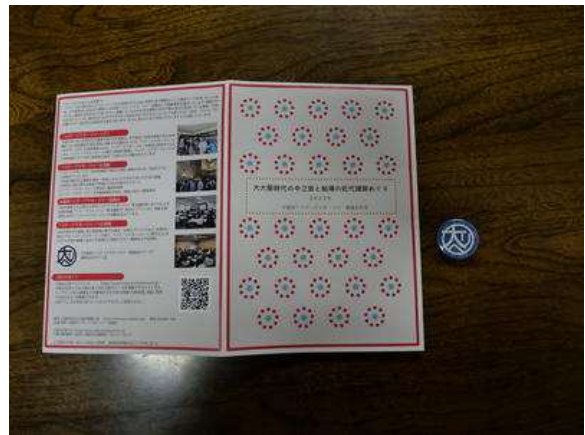
朝 8:45 までに大阪市中央公会堂前に集合です。



(↑ 大阪市中央公会堂前にて、大阪建築士会の係の皆さんの受付準備の様子)

Gコースには、75名の申し込みがあり、15名のグループに分けて、集まりしだい、順次出発です。早めに行ったので、2班になりました。

受付にて、リーフレットと缶バッジ(大阪府ヘリテージマネージャー協議会のマーク)を受け取りました。



(↑ リーフレットと缶バッジ)

説明者は小林さんで他に3名の方がついてくださいました。

ほとんどの建物は、外観の見学でした。内部の写真を用意していただけだったので、それを見ながら説明を受けます。



(↑ 見学時間を各班ずらすため、班ごとにルートは異なる。)



(↑ 内部の写真を見ながら建物の説明を受ける)

船場ビルディングは内部の見学ができました。



(↑ 船場ビルディング 外観)



(↑ 船場ビルディング 内部)

狭い地区ではありますが、至る所に古い建物で残って、今でも活用されていることはすごいことだと思いました。

薄曇りで、直射日光がさすことなく、時折風も吹いて、歩きやすかったです。

係の皆様、分かりやすい説明で参考になりました。ありがとうございました。

建築士会東海北陸ブロック会

女性建築士協議会

令和7年度ブロックいが大会



(↑ 岐阜県建築士会 女性委員 集合写真)

女性建築士協議会単独開催

参加者:女性委員会 43名(内岐阜県女性委員会7名)
近畿ブロックより参加 大阪府5名 和歌山県1名
静岡県より参加 1名
対面参加合計 50名 WEB参加 2名
来賓者等 3名

日時:令和8年2月21日(土)~22日(日)

テーマ:
「城下町のこれから~賑わいの拠点を目指して~」

宿泊ホテル:
ルートイングランデ 和倉の宿 伊賀上野城前
(住所:伊賀市上野丸之内 1-131)

《プログラム》

【大会1日目】令和8年2月21日(土)

開会式 会場:上野西小学校多目的ホール
(住所:伊賀市上野丸の内丸之内 112)

分科会① 旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE
伊賀市担当者より説明 施設見学

分科会② 3班に分かれて城下町散策
(ボランティアガイド)

A 指定文化財コース
入交家住宅(入館)~旧北泉家住宅(外観のみ)
~旧崇廣堂(入館)

B 俳聖 芭蕉コース
芭蕉翁記念館(入館)~芭蕉翁生家(入館)
~故郷塚(愛染院)(入場)

C 忍者博物館・上野城コース
伊賀上野城(入城)~俳聖殿(外観のみ)
~伊賀忍者博物館(入館)
岐阜県からの参加者は、AとBの2コースのみでC
コース参加者はいませんでした。

懇親会 懇親会場:料亭旅館 三田清
(住所:いが伊賀市上野赤坂町 320 番地)

座談会 ホテル内 美蔵

【大会2日目】令和8年2月22日(日)

会場:伊賀市文化会館 多目的室
(住所:伊賀市西明寺 3240 番地の2)

後期定例会議
意見交換会 各見学コースの感想、意見交換会など
閉会式

■後期ブロック いが大会 全体報告

報告者:長瀬 八州余

今回は、JR等を利用して、出かけました。3日間の連休の初日で、JR関西本線 亀山駅で加茂行きに乗り換えましたが、車両は一両編成で、ラッシュ時に負けないくらいの混み方でした。関駅で1/3ぐらいが降車して、柘植駅で1/3ぐらいが降車して、立っている人が数名という状況になり、JR伊賀上野駅で残っている人の半分ぐらいが降車して伊賀鉄道に乗り換える人は数名でした。伊賀鉄道 上野駅に到着しました。



(↑ 伊賀鉄道 上野市駅の駅舎:大正6年(1917)に建てられた洋風建築、屋根はマンサード屋根になっています。)

ホテルに荷物を置いて、開会式会場の上野西小学校多目的ホールに向かいます。



(↑ 開会式会場の上野西小学校多目的ホール)

今回は、一日目の分科会、懇親会のみでの参加では有りますが、近畿ブロックの大阪府から5名と和歌山県から1名の参加がありました。

青年と合同の時は、他ブロックからの参加はありましたが、女性協議会単独開催での、他ブロックからの参加は初めてだと思います。

委員長の岡田さんは諸般の事情で急遽欠席になりましたが、岐阜県から参加の7名は自家用車か JR 等で来ていました。

名古屋駅から高速バス利用の福井県と愛知県は、交通渋滞等に巻き込まれて、少し遅れてしまいました。

協賛企業で「クマリフト株式会社」がブースを設けていました。今回は黄色地と水色地の二種類の袋を用意していました。



(↑ 協賛企業のブースの様子)



(↑ 会場の様子)

開会式の来賓として、伊賀市長 稲森稔尚氏、(公社)日本建築士連合会 女性委員長 石貫方子氏、(一社)三重県建築士会 副会長 西井一比古氏の三名のご臨席がありました。



(↑ 来賓3名の方々)

女性単独開催で、自治体の長が来賓で出席されたのも、初めての事だと思います。

無事に開会式が終了して、分科会①に全員参加して、その後分科会②へと進みます。

分科会①は旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE 伊賀市担当者より説明を受けながら施設見学。

分科会②は A、B、C と3コースに分かれてボランティアガイドさんと一緒に町歩きをします。

A 指定文化財コース(歩行距離・時間:3.9km、75分)

B 俳聖 芭蕉コース(歩行距離・時間:3.0km、55分)

C 忍者博物館・上野城コース(歩行距離・時間:2.3km、45分)



(↑ 分科会①にて、建物内部の2階ホテル廊下にて、伊賀市役所担当者に説明を受けている様子)



(↑ 懇親会場 料亭旅館「三田清」の門構え)

雛人形の飾ってあるロビーにてお抹茶の接待を受けて、懇親会場に入ります。



(↑ 分科会②Aコース 入交家住宅 見学風景。ボランティアガイドさんは子供の頃、友達がこの家の子だったので、よく遊びに来ていたと話してくださいました。)



(↑ 三田清 ロビーにて 大阪府、和歌山県から参加の皆様)

懇親会を楽しく、おいしく過ごして、マイクロバスにて、ホテルへ帰ります。



(↑ 古い建物をホテルにしていたり、ホテル用に改修工事をしている所が何カ所がありました。)

散策後、コースごとにホテルに戻って、懇親会場「三田清」のマイクロバスにて会場へ向かいます。



(↑ 懇親会場の様子)

ホテル1階「美蔵」にて座談会です。

少人数でのテーブルでしっかり交流ができたように思います。一時間半の予定でしたが、すぐに時間がたってしまいました。

二日目はホテルから少し離れた伊賀市文化会館 多目的室にて後期定例(三重)会議です。車の方は、自家用車で、公共機関の方は伊賀交通のマイクロバスでの送迎です。バスの運転手さんが、このホテルの駐車場を見て「こんなに車が止まっているのは見るのは初めてだ」と話してくださいました。女性委員の乗ってきた車も有りますが、それだけ観光客等が多くなってきているのでしょうか。

9時からしか会場が開かないので、少し待ちます。9時15分から会議開始です。



(↑ 会議会場の伊賀市文化会館で開館を待っている様子)

途中の休憩時間を少し削りましたが、上手に会議を進める事ができて、ほぼ時間通りに終了しました。

会議終了後、意見交換会として、一日目の分科会での各コースの感想を事前をお願いしていた方に発表していただきました。今までは、このような交流はなかったので、皆さんの感想を聞いて新鮮に感じました。

閉会式です。

会議最初に開催県挨拶をいただいた(一社)三重県建築士会 伊賀支部長 西出章様も最後まで参加してくだ

さいました。



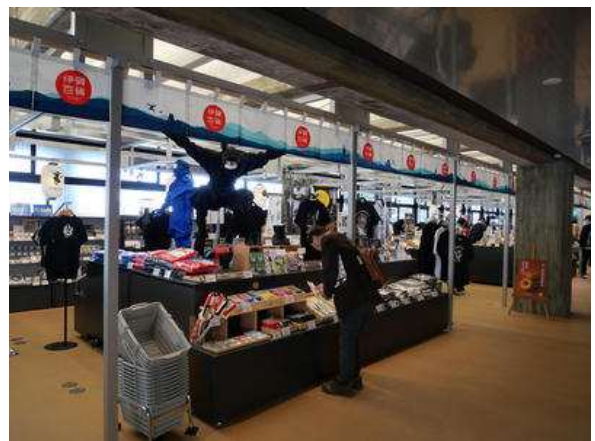
(↑ 新運営委員長の愛知県 有村尚子さんの挨拶の様子)

集合写真を撮り、終了となりました。



(↑ 会議後の集合写真)

帰りに「SAKAKURA BASE」のお土産さん「伊賀百貨」に寄ってお土産を買いました。



(↑ 「SAKAKURA BASE」のお土産さん「伊賀百貨」)

上野駅前には、銀河鉄道999の鉄郎とメーテルの銅像が有ります。
 伊賀鉄道の車両のデザインを松本零士氏が行った事から、銅像が設置されたとの事です。
 帰りの電車は、「忍者ペイント列車」でした。



(↑ 鉄郎とメーテルの銅像)



(↑ 伊賀鉄道 忍者ペイント列車)

帰りの JR は混むこともなく、無事に帰路につくことができました。

三重県の皆様の心づくしを感じて、楽しい二日間を過ごすことができました。ありがとうございました。
 ご参加の皆様も、お疲れ様でした。



■懇親会に参加して

報告者:長瀬 八州余



(↑ にんにんのポーズで集合写真)

宿泊ホテルより、懇親会場の料亭旅館「三田清」のマイクロバスにて会場に向かいます。

お雛様が飾ってあるロビーにて、お抹茶の接待を受けます。お菓子は金平糖でした。



(↑ ロビーにてお抹茶の接待を受けている様子)

会場の席は決まっていたので、各々席に着きます。

今回は、近畿ブロック 和歌山県から1名、大阪府から5名の方が1日目の行事に参加して下さり、懇親会も最後まで参加して下さいました。

来賓挨拶で三重県建築士会 西井副会長と近畿ブロックから参加して下さった連合会へ出向の和歌山県の畠中さんよりお言葉をいただいた。



乾杯後、三重県建築士会の伊藤会長より差し入れの地酒の紹介があり、それと共に、富山県の富樫さん、岐阜県の桂川さんから地酒のお土産をいただいたとの事でした。



(↑ 用意された地酒とワイン(右側2本がワイン))

余興では、伊賀特産品の伊賀組紐の商品が10個賞品となり、抽選会が行われました。大阪府から参加された大阪府女性委員からお菓子が2点追加の景品となりました。

約40名の参加者で当選者は12名で、当たる確率の高い抽選会であったと思います。それでなんと言うことでしょ、長瀬が当たりました。岐阜県からは高野さんが、大阪府のお菓子が当たりました。

テーブルから離れて、皆さんそれぞれ交流を深めていたように思います。



(↑ 懇親会の様子)

料理も美味しく、楽しい時間を過ごす事ができました。

三重県の皆様ありがとうございました。

■座談会に参加して

報告者:井之口 洋子

初日の最後はホテル内のレストランにて座談会でした。

ざっくばらんにいろんな意見を話し合いたいとの趣旨で行われました。参加者は東北陸ブロックのほぼ全員だったように思います。

約4~6名ずつ分かれて、テーブルごとに一時間半ほど歓談しました。

私は富山県、愛知県の方と岐阜県の桂川さん、いが大会の開催県の委員長の神谷さんとご一緒させていただくことになりました。

今回、とても有意義な分科会でしたので、開催までに苦労されたことや市との連携など貴重なお話を聞かせていただきました。

たまたま前年度の岐卓後期大会でも神谷さんと懇親会では同じテーブルになり、少しお話を聞いていたのですが、下準備にかなりの時間をかけてくださったことが分かりました。

最後に会議の協議事項になる「テーマを持った活動について」を話しましたが時間切れで深い話にまでならず残念でした。

座談会のような場があると、他県の方々と直接話することができて親睦を深めることはもちろんですが色々な考えも聞くことができ良かったと思いました。



(↑ 各テーブルの様子)

【大会 1 日目】 令和 8 年 2 月 21 日(土)

■分科会①②

分科会①

旧上野市庁舎 (SAKAKURA BASE) 施設見学

報告者: 桂川麻里

場 所: 旧上野市庁舎「SAKAKURABASE」

出席者: 岐阜県から7名 総数: 44名



(↑ 外観写真)



(↑ 入り口正面にて 忍々ポーズで集合写真)

旧上野市庁舎は 1964 年 12 月 10 日に竣工した地上 2 階(中 2 階含む)、地下 1 階の鉄筋コンクリート造で、建築家坂倉順三氏が設計した建物です。

その建物が「SAKAKURA BASE」として生まれ変わりました。坂倉順三氏の手掛けた岐阜の羽島市役所は残念ながら取り壊されてしまいましたが、ここは 2 階がホテル、1 階は図書館として利用されます。図書館は令和 8 年 4 月 1 日からオープンするのでまだ準備をされている途中でしたが、1 階部分もホテルレセプションの部分と観光案内所、土産物店、カフェはオープンしていました。

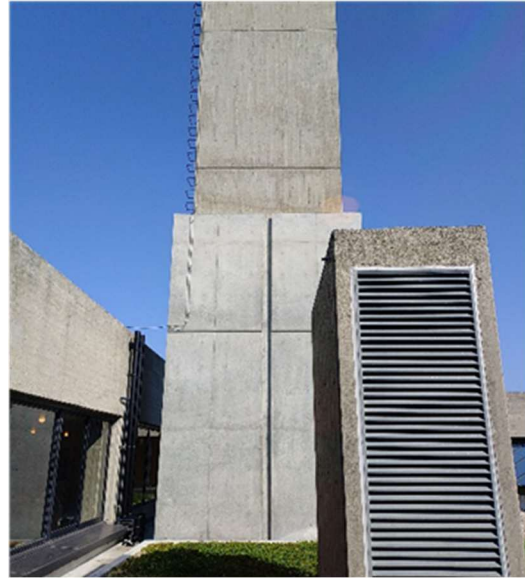


(↑ 上野西小学校多目的ホールにて説明を聞く)

分科会①は最初は上野小学校多目的ホールにて伊賀市の担当者の方に市役所の竣工当時の話や「SAKAKURA BASE」になるまでのお話をお聞きし、現在建物は伊賀市指定有形文化財に指定されていますが、当時の図面も残っており、図面の一部も附けたりして指定されているそうです。

お話を聞いた後、「SAKAKURA BASE」に移動し、2班に分かれて見学しました。私たちの班は内部からの見学で最初は2階のホテル部分へ行きました。照明などの配線などの関係で天井は少し低くなっているようですが、廊下から見える壁は当時のままだそうです。当時の執務室の大きさをそのまま客室としているため、市長室などはスイートルームになっているようで、部屋番号は他のホテルと同じように数字が割り振られていましたが、内部に入ると社長室等名前が残っているそうです。

そうで、電気がついていなくても明るく感じました。



(↑ 煙突の補強)



(↑ 旧議場を学習スペースへ)



(↑ 外部の見た目はそのままの補強箇所)



(↑ 準備中の図書館)

震補強については外観から見える部分ではなく内部の壁で賄っているようで、模様としてわざと残されていた型枠の跡も当時のまま残すように全部内部で耐震補強してあるそうです。船舶をイメージした煙突部分は下部をコンクリートで補強しており、ホテルの廊下からは写真のように見えてしまいますが、外からは分からないように補強されていました。

その後、準備中の図書館スペースを見学しました。2階にあった議場の跡は学習スペースになるそうです。1階や中2階の床はモザイクタイルで元々敷き詰められていたようですが、悪くなった部分や、配管のため床上げをした部分は全て貼り替えたそうです。雨漏りがしていた閉じられていた天窓も補修して利用できるようにした

建物を残すためには利活用が重要になりますが、坂倉順三氏の良さをそのまま残したこの活用方法はとても良いと感じました。見学できてとても勉強になりましたし、良かったです。

分科会②

3班に分かれて城下町散策(ボランティアガイド)

A 指定文化財コース

入交家住宅(入館)～旧北泉家住宅(外観のみ)～
旧崇広堂(入館)

B 俳聖 芭蕉コース

芭蕉翁記念館(入館)～芭蕉翁生家(入館)～故郷
塚(愛染院)(入場)

C 忍者博物館・上野城コース

伊賀上野城(入城)～俳聖殿(外観のみ)～伊賀忍
者博物館(入館)

岐阜県からの参加者は、AとBの2コースのみでC
コース参加者はいませんでした。

分科会②

Aコース「指定文化財コース」

報告者:田中 佐企

●国史跡 旧崇広堂

崇広堂は、1821年に藩校として建てられた建物です。
かつて学びの場であった講堂は表庭に面した天井の高
い部屋で、拝観の際はひな人形が飾られていました。



中庭を挟んで控室として使われていた部屋は位により
仕様が区別されており、竿天井の板幅などに表れてい
ました。(位が高い部屋ほど板幅が広く、使用人室や台
所は竹小舞風)



●県指定文化財 入交家住宅

170万石の藩主として幕末まで続いた入交家住宅は平
成13年に市が公有化されたそうですが、江戸時代から
の武家屋敷を大きく改造することなく、平成の時代まで
脈々と受け継がれてきた御子息たちの熱い思いに頭が
下がります。

主屋の茅葺屋根は昨年葺き替えられたばかりだそう
で、大変美しい姿でした。



●北泉家住宅ほか

北泉家住宅は今回工事中のため足場が設置されており
拝観することはできませんでしたが、500m強四方の範

園を散策する中に 10 以上の文化財が点在することに驚きました。

普段、歴史的な建造物をいともたやすく解体してしまう場面に接していると、伊賀市は戦災を受けなかったとはいえ、先人たちの文化を継承していく意識の醸成が市長のみならず市民の中にもなされていることに深く心を打たれました。



(第三尋常中学校校舎付正門)



(星家住宅主屋)



(上野文化センター)

分科会②

Bコース「俳聖 芭蕉コース」

報告者:高野 栄子

1. 見学場所

- ・芭蕉翁記念館
- ・芭蕉翁生家
- ・故郷塚

2. 見学の目的

伊賀市出身の俳人、松尾芭蕉の足跡をたどりながら、地域の歴史や文化と建築とのつながりを感じ、保存と活用のあり方について学ぶことを目的に見学を行いました。松尾芭蕉は「奥の細道」の最後を岐阜県の大垣市で迎えており、私にとっても身近な存在でありより深く知りたいと思いました。

3. 見学を通して感じたこと

芭蕉翁記念館では、落ち着いた雰囲気の中で展示が工夫されており、建物が主張しすぎることなく、芭蕉の世界観を大切にしていることが伝わってきました。やわらかな光の入り方や、ゆったりとした動線計画も印象的でした。

芭蕉翁生家では、町家の素朴な佇まいに心が和みました。土間や座敷の構成から当時の暮らしを想像することができ、簡素でありながら温かみのある空間に、芭蕉の精神と重なるものを感じました。芭蕉の兄が芭蕉の為に作ったとされる書斎は、茶室ではないけれど「わびさび」を感じる粋な建物でした。

故郷塚では、静かな空気に包まれた空間づくりが心に残りました。華美ではなく、自然と調和した佇まいは、記念の場としてふさわしい穏やかさを感じさせてくれました。

4. まとめ

今回の見学を通して、建築は単なる「形」ではなく、その土地の歴史や人の思いを包み込む存在であることをあらためて実感しました。



(↑ 芭蕉翁記念館)



(↑ 芭蕉翁生家)



(↑ 芭蕉翁生家)

【大会 2 日目】

令和 8 年 2 月 22 日(日)

会 場:伊賀市文化会館 多目的室
(住所:伊賀市西明寺 3240 番地の2)

参加者:38名(内岐阜県から参加6名)
対面:35名
WEB 参加:2名
来賓:1名

【プログラム】
後期定例会議
意見交換会 各見学コースの感想、意見交換会など
閉会式

■建築士会東海北陸ブロック会 女性建築士協議会 令和7年度 後期定例(三重)会議 報告書

報告者:高野 栄子

(1)開会あいさつ

運営委員長の酒井さんより開会のあいさつがあり、協議会の目的や本年度の活動方針について説明がありました。

(2)議題

① 今年度各県事業について
各県の活動報告が行われ、研修会や見学会の実施状況、とりくんでいる事業について発表がありました。

② 連合会女性委員会の報告
主に次年度の全建女と全国大会の女性セッションについて話し合いがされているとのこと。

③ 東海北陸ブロック会・青年協議会の報告
親会の会議に参加されているとのこと、予算のことや青年委員会との協働についての定義があったようです。

(3)協議事項
次年度前期定例会議についてと次年度ブロック大会に

についての説明がありました。

会の運営について持ち回り順の確認や預金の通帳についての方向性を説明していただきました。

また今後女性建築士協議会で取り組んでいくテーマについてもさまざまな意見がでました。

女性建築士のネットワークの強化や、地域に根ざした活動の重要性について活発な意見交換が行われました。また、若手会員の参加促進や継続的な交流の在り方についても前向きな意見が多く出されました。

まとめ

本会議では、各県の活動状況を共有するとともに、今後の事業の方向性について有意義な協議を行うことができました。ブロックとしての連携を深め、女性建築士の活動のさらなる充実につなげていくことの重要性を再確認しました。

各県の取り組みを直接伺うことができ、大変有意義な会議となりました。今後も相互に連携しながら、女性建築士として地域や社会に貢献できる活動を続けていきたいと感じました。



(↑ 運営委員席の様子)



(富山県の事業報告の様子)



(↑ 会議で出されたお茶とお菓子

お茶: 伊賀市にサンガリアの工場が有るのでサンガリアのお茶にしたとの事でした。

お菓子: 忍者最中、花咲かりん)



(↑ 富山県はイベントで絵本「3ひきのかわいいオオカミ」の読み聞かせを行っている。かぶり物をかぶって寸劇を少し入れて行っているとの報告でした。)



(↑ オブザーバー席の様子)

■意見交換会報告

報告者:長瀬 八州余

定例会議後、初めての試みとして、一日目の分科会②についての意見交換会が設定されました。

各コースの参加者2名に、事前に発表のお願いメールしていたので、順調に発表は進みました。

A 指定文化財コース(歩行距離・時間:3.9km、75分)
参加者:20名
入交家住宅(入館)～旧北泉家住宅(外観のみ)～旧崇廣堂(入館)

B 俳聖 芭蕉コース(歩行距離・時間:3.0km、55分)
参加者:14名
芭蕉翁記念館(入館)～芭蕉翁生家(入館)～故郷塚(愛染院)(入場)

C 忍者博物館・上野城コース(歩行距離・時間:2.3km、45分) 参加者:10名

※Cコースは散策に石段などが多いため、歩きやすい靴をご用意ください。

伊賀上野城(入城)～俳聖殿(外観のみ)～伊賀忍者博物館(入館)

・知人が結婚して「入交」という姓になり、名前が気になってAコースに参加した。

・Bコースのボランティアガイドさんは健脚で、ついて行くのに大変だった。

・Cコースはお城でゆっくりすぎて、伊賀忍者博物館が16時受付終了、16時半閉館ということを見失っており、着いたのが16:10で慌てて、ボランティアガイドさんと三重県の係の人が会館側において、10分で見学を済ませたというので、慌ただしく見学をしたとの事でした。またCコースは3コースの中では距離数は少ないですが、他の2コースと比べると上下の移動があり、コース案内に記入があったのに、見落としており、移動が大変だったとも報告もありました。

自分の参加していないコースの様子を聞くことができ、楽しかったです。



(↑ 発表の様子)

第24回気楽にらくだ会

日時：令和8年3月7日(土)
13:20～ 受付
13:30～15:50 座談会(飲み物と茶菓子付き)
場所：OKB ふれあい会館 小会議室 405
(住所：岐阜市藪田南 5-14-53)
参加者：11名



(↑気楽にらくだ会 会場の様子)

「気楽にらくだ会」に参加して

報告者：森崎 麻充

今回の「気楽にらくだ会」は、座談会形式でした。

まず、参加者11名が、それぞれの仕事や家庭生活等の経歴を含め現状報告をしました。委員会などで皆さんとお顔を合わせる機会はあるとしても、プライベートな部分はなかなかお聞きすることが出来ないの、大変興味深かったです。中でも親等の介護については、様々な経験談が披露され、大変盛り上がりました。

女性委員会設立40周年を2年後に控え、初代委員長の林直見さんに女性委員会の設立から運営まで、経緯をお話いただきました。特に印象深かったのは、会は継続しなければ消滅する恐れがあることから、ミニ研修会を毎月開催し、定着化を図ったことです。これには大変な労力を費やされたことが想像出来ます。現在の女性委員会が存続していることは、このようなご尽力によるものと痛感しました。林さんは、これからも仕事に加え、和室や畳文化の維持や継承など、精力的な活動をされるそうです。

林さん、そして参加した女性委員の皆さん、貴重なお話をありがとうございました。



(↑座談会の様子)

編集後記

56号をお届けします。

6月の発行ということで、マークはアカツメクサ(赤詰草)を使用しました。

令和7年度後期(10月～3月)の報告となっています。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会
岐阜市藪田南5丁目14番地12号
岐阜県シンクタンク庁舎4階

TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

Eメールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

